



【21世紀型ビジネスの芽】

環境と健康はこれからの企業の評価や、ユーザー吸引力になることは間違いありません。こうした潮流に配慮してISO資格を取得する企業が増加し、自治体などにグリーン購入も広がっています。また、環境、健康に焦点を当てた商品は堅調なことから、企業も重点的に企画開発を行っています。

新ながおか地域の豊かな自然は、良質な食材提供地としての裏付けになっていて、日本酒、製菓など加工品の生産地としてのメリットにもなっています。この資源は、観光、教育などの面でも多様な活用がありますが、新しいニーズの商品開発、製造においても可能性に満ちています。

自然は健康・環境ビジネスの宝庫

アレルギーや化学物質過敏症対策は、年々ニーズが高まっています。改善と対策には衣食住全般にわたるアプローチが必要ですが、その一つが住環境の化学物質の排除、削減といわれます。平成15年7月からは改正建築基準法で、建材、家具からの化学物質の揮発量が規制されるようになりました。こうした動向やニーズをふまえて、自社独自の基準をうちだして商品価値を高めていこうとする建材・家具メーカー、建築業者も少なくありません。

新ながおか地域には、伝統を受け継いだ木工の技、良質な国産材という資源があります。これらの活用は、現代の健康ニーズに応えるだけではありません。山林保護、水源の確保という自然環境保護にもつながり、商品としてより高い評価が得られます。

ここで木材と住関連商品の開発事例をご紹介します。アレルギー・化学物質過敏症対策の商品として評判の国産天然素材「未晒し蜜ロウワックス^{みびら}」です。全国の小学校や保育園、幼稚園などで使用されていて、個人の住宅や医療施設での需要も見込まれています。

原料はミツバチの巣である蜜ロウと植物油（エゴマ油）で、三重県尾鷲市の元製材業者が養蜂業者の協力で開発しました。きっかけは、地元材で建設された小学校を見学したときに化学塗料で気分が悪くなったという個人の体験です。試行錯誤を重ねて完成をみましたが、木材と養蜂という二つの仕事の知識と経験の融合で生まれた商品です。

